

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 16 日現在

機関番号：38002

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25420684

研究課題名(和文) ハワイ諸島の糖業プランテーションタウンの都市構造に関する研究

研究課題名(英文) A Study on the Formation of Sugar Plantation Towns in Hawaii

研究代表者

小野 啓子 (ONO, Keiko)

沖縄大学・法経学部・教授

研究者番号：50369211

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：戦前期、日本の委任統治領であった南洋群島の経済は糖業が牽引したが、そこで建設された糖業プランテーションセトルメントの原型は、1895年より日本の統治下にあった台湾で形作られた。さらに、台湾で建設された糖業プランテーションセトルメントのモデルは20世紀初頭のハワイ諸島にあった。本研究は、19世紀末から20世紀初頭のハワイ諸島の糖業プランテーションとその周辺の状況について、地図、文献、写真等の収集分析、第二次世界大戦前の状況を記憶している日系二世の居住者の聞き取りを行い、ハワイ諸島における糖業プランテーションのセトルメントとしての特長や変遷を総合的に明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The sugar industry underwrote the colonial economy of Japanese mandated Micronesia before World War Two. Beginning in the 1920s, the industry eventually brought 96,000 Japanese migrants to the island region in the 1940s. Prior to that, the Japanese had developed a successful sugar industry in Colonial Taiwan (1895-1945) by establishing the Japanese model of plantation settlements. The origin of Japanese sugar plantation settlements in Colonial Taiwan can be linked to sugar plantation models in Hawaii at the beginning of the twentieth century. This study thus explores physical and social features of sugar plantation settlements across four Hawaiian islands, from the end of the nineteenth century to the beginning of the twentieth century based on archival sources, historical maps, photographs, literature and interviews with residents who remember life in the sugar plantation towns of Hawaii prior to World War Two.

研究分野：都市史

キーワード：ハワイ 移民 糖業 プランテーション 太平洋島嶼地域 都市史

1. 研究開始当初の背景

戦前期、日本の委任統治領であった旧南洋群島(ミクロネシア)の経済は糖業が牽引した。1920年代半ばより北マリアナ諸島を中心として糖業プランテーションが建設され、最盛期の1940年代初頭には10万人近い日本人移民が生活し、その6割を沖縄出身者が占めた。

南洋群島における速やかな糖業の成功の背景には明治～大正期の植民地台湾での糖業経験があった。日本型の近代的糖業プランテーションのモデルは1910～20年代に台湾で確立したが、そのルーツは20世紀初頭のハワイ諸島にあった。

2. 研究の目的

本研究の目的は20世紀初頭のハワイ諸島の糖業プランテーションおよびその周辺部を含めた糖業プランテーションタウンについて、地図、航空写真、当時の状況を知る人々の聞き取りや写真等の当時の生活を物語る資料を収集し、居住者の生活、都市構造を明らかにすることであった。さらに、ハワイ諸島の糖業プランテーションタウンとその影響を受けながら展開した南洋群島の糖業プランテーションタウンの都市構造を比較分析することを目指した。

3. 研究の方法

ハワイ各島の旧糖業会社が所有する19世紀末～20世紀初期のプランテーション周辺の地図、写真の他、ハワイ大学図書館、ハワイ州公文書館、ビショップ博物館、日本国内の図書館でハワイの糖業プランテーションに関する地図、写真、統計等の資料収集を行った。また、プランテーションでの生活を記憶している日系二世の日本人(80～90代)の聞き取り調査を行った。

4. 研究成果

ハワイの糖業プランテーションタウンについて、特に台湾の日本人技術者が視察に訪れた20世紀初頭の状況を中心に、その後の変化や形態的な変遷を考察した。また、聞き取り、文献等により、生活の様子についても当時の様子の一部を明らかにした。

(1)1905年6月、日本人技術者のハワイ視察

1905年6月21日、台湾製糖の若い技術者であった草鹿砥祐吉を含む3人がオアフ島ホノルル港に降り立った。目的は軌道に乗り始めたばかりの台湾での製糖事業に活かすため、最先端であるハワイ糖業の技術や管理を実際に視察することであった。一行はオアフ島を皮切りに精力的にマウイ島、ハワイ島の製糖会社を回り、当時の最新の製糖設備や合理化された農場のシステムを

見学した。草鹿砥らはまた、各プランテーションに整備されていた社宅や福利厚生施設にも感銘を受け、これらを範とした総合的なプランテーションの建設を台湾で試みた。

(2)1905年1月。ハワイ準州労働委員会による報告書 (Report Labor Committee, Territory of Hawaii, 1905,ハワイ州立公文書館所蔵)

草鹿砥らがハワイに到着する数ヶ月前、ハワイでは各プランテーションの生産力、労働力等の現状を詳細に調査した報告書が提出された。報告書はオアフ、マウイ、ハワイ、カウアイの4島49カ所のプランテーションについて、労働者数、人種別構成、耕地、生産量などの統計資料と膨大な量の写真を含むものであった。ハワイの糖業は19世紀前半に始まった。プランテーションは当初はハワイ人を労働力としたが生産性を上げることができず、1850年代より大量の中国人移民を導入した。しかし、中国人移民は契約期間が終了すると本土に転出するなどして定着せず、さらにアメリカ本土で中国人排斥運動が起こり、1882年には中国人排斥法が施行された。そのため糖業プランテーションは1880年代後半より日本人移民を大量に導入しすることとなった。1900年代初頭、労働者の不足は続いており、この報告書の目的は、中国人排斥法を見直し、改めてプランテーションに中国人労働者を連れてくるのが可能かどうかを検討することであったが、同時に草鹿砥らが訪れた当時の糖業プランテーションの状況を概観することのできる貴重な資料となっている。

・49カ所の糖業プランテーションで働く労働者総数は約43,000人であった。このうち、技術者以上(semi-skilledを含む)は約3,000名(7%)で、残りの約40,000人(93%)が耕地や工場で働く一般労働者であった。

・1905年当時、ハワイ最大のプランテーションはHC&S社が経営するマウイ島プーネで約3,000人の労働者を雇用していた。オアフ島エワ、同アイエア、同ワイパフ、マウイ島パイアがこれに続き、いずれも労働者は2,000人を超えていた。

・最もプランテーション数、労働者が多かったのはハワイ島だったが、個別のプランテーションの規模は他の島よりも小さく、労働者の平均は598人だった。

・日本人労働者は30,000人弱で全体の69%を占めた。この他、中国人、コリアン、ポルトガル人、プエルトリコ人等の労働者がいたが、ハワイ人は非常に少数だった。92%のプランテーションで日本人労働者比率は5割を超えていた。日本人労働者が実数で一番多かったのは、マウイ島プーネで、日本人労働者は2,000人を超えた。家

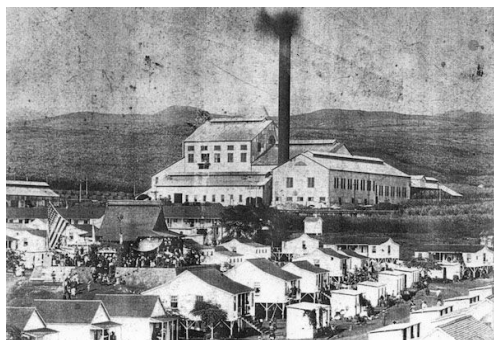
族を入れると1カ所のプランテーションで数千人の日本人が生活していた。

(3)1905年前後のプランテーションの状況

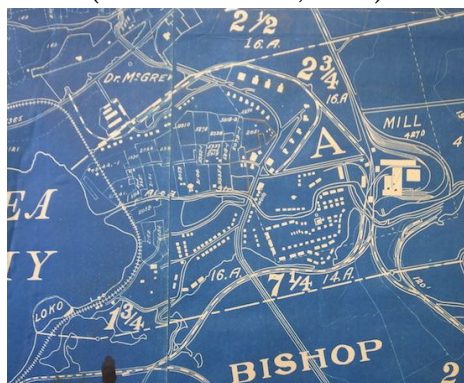
ハワイの糖業プランテーションは耕地での栽培から工場での製糖まで一貫して行うため、各会社が多くの人を抱えていた。19世紀の労働者は劣悪な環境に置かれていたが、労働力を安定的に維持するため、20世紀初頭より一部の糖業プランテーションでは労働者向けの宿舎を改善しつつあった。

オアフ島アイエア：囲み型配置

草鹿砥らが最初に訪れたオアフ島中部のアイエア耕地は労働者が3,000人を超える当時ハワイ第3位の大規模プランテーションであった。労働者のうち75%が日本人で、高台にある製糖工場の南の斜面に一般労働者の家族用住宅が並び、真ん中には本願寺、日本人学校があった。1899年に日本総領事が劣悪なバラックに日本人労働者が独身者、妻帯者とも詰め込まれているキャンプについて報告しているが(ヤノ 2011)、アイエアではある程度労働者の住環境が整えられていることがわかる。後に見られるようなグリッド上の配置や街区は見られず、オープンスペースの周りや道路沿いに宿舎が配置されていた。



1902年頃のアイエア
(Odo and Sinoto, 1985)



20世紀初頭と思われるアイエア地図
(時期不詳、旧製糖会社所蔵)

ハワイのプランテーション宿舎整備の初期(19世紀末)は、囲み型のパターンが各地で見られた。

オアフ島エワ：囲み型配置からグリッド

街区配置へ

19世紀末より、製糖会社は慢性的な労働力の不足に悩んでいた。初期は単身の男性移民が多かったため、生活は荒廃し、賭博や飲酒、売春などが蔓延、労働力として定着しない。また、衛生状態が悪く、伝染病もしばしば発生し、深刻な影響が出ていた。1900年代の初め頃から、製糖会社の中には労働者の住環境を整え、安定して家族で生活できる状態をつくるのが労働力の安定化に有効であるとする製糖会社も出てきた。

特にその先駆けとなったのが1905年当時、ハワイ第2位でオアフ島最大のプランテーションであったエワプランテーションである。1899年にハワイ島コハラプランテーションよりマネージャーとして35才で赴任したジョージ・レントンは、製糖についても生産種の多様化や工場の合理化などを行ったが、もうひとつ力を入れたのが安定した労働力の確保である(Pagliaro 1987)。レントンは単身者ではなく、結婚し家庭を持つ労働者を定着させることが必要であると考へた。そのため、プランテーション内に質素であっても庭のある労働者向け住宅を整え、公衆衛生を向上させることが会社にとっても利益となるという信念を持っていた。赴任した翌年の1900年には病院を設置、労働者向けの住宅整備に着手した。労働委員会の報告では、家族向けの簡素なダブルハウス(2戸)宿舎の写真が見られる。

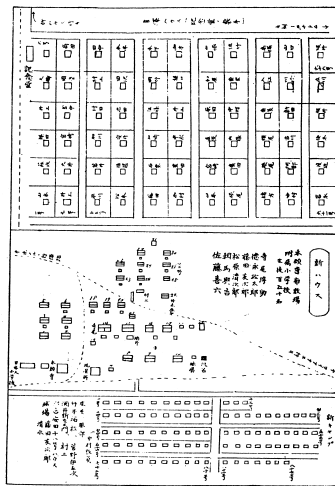


1905年のエワプランテーション宿舎
(Report Labor Committee, 1905,
ハワイ州公文書館蔵)

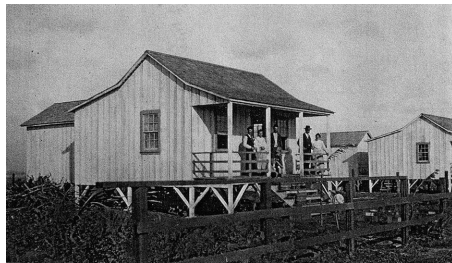
ハワイのプランテーションでは1930年代までは人種毎に宿舎(キャンプ)を分けることが一般的であった。レントンはポルトガル人家族と日本人家族のために「パイプラインビレッジ(キャンプではなくビレッジ=村と呼んだことに注意)を1906年頃に建設し、それぞれがフェンスで囲まれた庭のある区画で、水道も設置されていることを1907年の年次報告で述べている。これらの住宅はグリッド上に規則的に配置された。1907年時点で、総計451戸の住宅があり、食堂、浴場、キッチン、木工室、学校、教会などを整備したことについても報告している。

1910年代の初め頃、ハワイ諸島のすべてのプランテーションを地図化して日本人居住者の情報を一覧できるようにまとめた武居熱血(1914)の記録からは、他のキャンプ

と異なり、エワ耕地の宿舍の一部がそれぞれ庭のある区画を有し、グリッド型の街区が形成されていたことがわかる。



エワ耕地 (武居 1914)



エワのパイプライン住宅
(1907年, ピシヨップ博物館蔵)

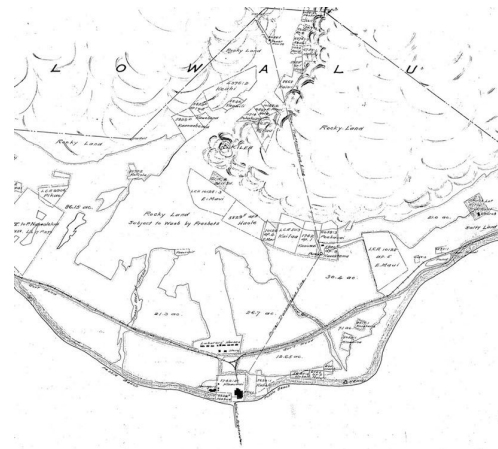
一方、1905年にエワを訪れた草鹿砥らはゆったりと間隔を空けて建てられた社宅やテニスコート、クラブハウスに感銘を受け、台湾での再現を試みている。当時の状況を総合するとこうした質の高い住環境や福利施設はこの段階では技術者向け (skilled and semi-skilled employees) だったと思われる。

なお、エワでは一般労働者向けの福利厚生施設の整備拡充は続けられ、1910年頃にはそれぞれのエスニックグループ別のクラブハウス、ミーティングホール、野球場、幼稚園、銀行、店舗などが整備されていた。

マウイ島オロワル：狭軌鉄道

エワのような大規模なプランテーションに比べ、マウイ島オロワルは小規模であった。1905年当時、49プランテーションのうち45番目の規模で労働者数は121名に過ぎない(このうち、82名が日本人)。当時ハワイの製糖業では36インチの狭軌鉄道が使われていたが、ここでは特に小さい24インチ幅の狭軌鉄道が使われており (Dorrance 2000) 草鹿砥らにはこちらの方が参考となったと述べている。帰国した草鹿砥らはこれを参考として30インチの狭軌鉄道を導入し、これが台湾の製糖業の

標準となっている。



マウイ島オロワル, 1906年
(Bill Frampton氏提供)

海沿いに棧橋と製糖所があり、線路と道路を隔てた山側に宿舍が並ぶ構成となっている。

オロワルでは海沿いに棧橋と製糖工場があり、線路と道路を隔てた山側に2戸一の住宅(ダブルハウス)が並ぶ構成となっている。労働者の師弟のための学校が19世紀末には設けられたが、加えて日本人学校が設立され、教員一人が日本語教育にあたった。武居による1914年の記録ではその隣に本願寺布教場が見える。

(4) ハワイにおける糖業プランテーションの変遷(1900年代~1930年代)

1900年代から1930年代の労働者住宅の概況

Riznik (1999) による労働者住宅の変遷のまとめと関連資料を総合すると、以下のように整理できる。

【~1900年】

一般労働者はバラックやダブルハウスに住み、住環境及び衛生状態は劣悪だった。プランテーション各社は労働力不足に悩んでいた。配置は囲み型、線路沿いや道路沿いの直列型が多く見られた。

【1900~1910年頃】

草鹿砥らが視察をした時代。技術労働者は戸建てに住み、クラブハウス、テニスコート、野球場、プールなどの設備が整ったプランテーションもあった。一般労働者はバラックやダブルハウスに住むことが多かったが、一部のプランテーションでは庭付きの戸建てが登場する。学校、病院、民族別のクラブハウスなどが建てられるが、住環境改善は途上で賃金などの待遇改善を求めて大規模なストライキも起こった。配置はグリッド状が増えた。

【1910~1930年頃】

一般労働者住宅の改善が大きく進展し、庭付きの街区形成型戸建て住宅への建て替

えが進む。1910年代の半ば以降はHSPA(ハワイ糖業プランター協会)が社会福祉部門を設置、衛生設備の改善や標準住宅モデルの普及などを促すようになる。

【1930年代以降】

建築家やプランナーが街区設計に関わるようになり、庭付き戸建て住宅や公園の整備が進む。体育館などの大規模な福利厚生施設整備も一部のプランテーションでは行われた。また、Riznik(1999)によると、1910～1920年代は多くのプランテーションで人種によりキャンプを分けていたが、1930年代以降戸建て化が進むと同時に人種はミックスされるようになっていった。

オアフ島エワの事例：街区の形成

1900年代に先進的な整備が始まったエワでは、1920年代にはマネージャーがジョージ・レントンから息子のレントンジュニアに交代した。粗糖生産は絶好調で、プランテーションについても改善が進んだ。住宅についてはHSPA(ハワイ糖業協会)の標準住宅モデルを使った「コテージ」への建て替えが進められた。各戸には4～5の部屋があり、電気が通り、水道が供給され、外にはケンタッキー式と呼ばれた浄化槽を使ったトイレが設置された。フロントヤードのある戸建て住宅が並び、郊外型住宅地のような街区の景観が形成されたのは1920年代と考えられる。



エワの一般労働者向けコテージ (HSPAによる標準住宅モデル), 1925年 (ビショップ博物館蔵)

HSPAの標準住宅モデルは、カウアイ島リフエプランテーションのプヒキャンプで1917～20年に建設された住宅が元になっている。HSPAは社会改善の一環として、これをハワイ各地のプランテーションで労働者住宅として普及させた(Riznik 1999)。

また、衛生環境の改善のため、HSPAはケンタッキー式浄化槽の普及を図った。

ハワイ島ホノム：メインストリートの形成

ハワイ島ホノムはハマクアコースト沿いに開発されたプランテーションの一つで、1876年の創業である。1905年には525人の労働者を擁した中規模のプランテーションとなっており、日本人労働者率は78%と

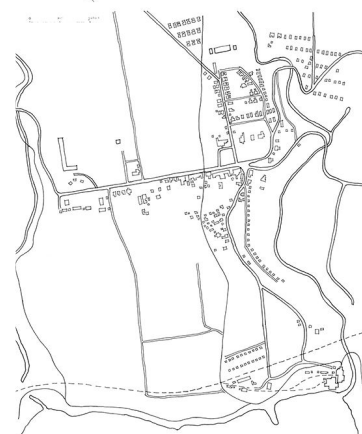
他のプランテーションより高かった。エワではすべての施設がプランテーション内にあり、ホノムの変遷は以下の通りである。



上は1900年頃のホノム。海沿いに製糖工場があり、宿舍群の配置はランダムである。家族向けの小規模な宿舎は見られない。耕地主の邸宅や耕地商店があり、その周辺にメインストリートの形成が始まっている。



上は1914年の中心部(サンボーン火災保険マップより作成)。メインストリートが形成され、日本人商店が少なくとも27軒(酒店、靴店、芝居小屋、ビリヤード、ホテル等)連なっていた。また、本願寺、日本人牧師が設立したホノム義塾という寄宿学校が出来ている。武居(1914)の記録とあわせて見ると、家族向けの住宅群が道路沿いに直列に並ぶかたちで1910年代初頭には整備拡充されていることがわかる。



1932年のホノム。1920年代に多くの住

宅が建て替えられ、グレードアップされた。メインストリートには映画館が加わっている。

(5) ハワイの糖業プランテーションの特長、日本型糖業プランテーションとの比較

ハワイの糖業プランテーションは19世紀までは工場を中心として、バラックの宿舎、家族向けの2戸住宅などがランダムに配置されているところが多かった。労働者宿舎の環境は劣悪で、マネージャークラスの邸宅との差は著しく大きかった。

1900年～1910年頃にはエワなど一部の大規模プランテーションでは家族向け住宅の改善が進んだ。グリッド型配置が用いられるようになり、病院や学校、クラブ、野球場等の福利厚生施設の整備も進んだ。さらに1910～20年代は初期の質の悪い家族向け労働者住宅が庭付きのゆとりのある戸建て住宅に建て替えられていった。この頃、HSPAの標準住宅モデルが普及し、衛生状態も大幅に改善した。1920年代の後半にはアメリカの郊外住宅地のようなゆるやかにカーブした街路や街路樹のある街区景観が整備される場合もあった。19世紀末より待遇改善を求める労働者のストライキが多発したが、同時に会社が労働者コミュニティ全体の医療、教育、文化などの福利厚生向上を図る社会理想主義的な側面も見られた。

ほとんどのプランテーションで耕地内に会社が売店を設置したが、敷地外に労働者のニーズに応える門前のメインストリートが形成されたところも多い。その多くはプランテーション労働者出身の移民が構えた様々な商売の店舗が連なるものであった。オアフ島ワイパフでは門前に商店街が形成されたが、第二次世界大戦後オアフ島東部最大のデパートとなったアラカワストアも登場した。アラカワストアは沖縄出身の新川善繁がプランテーションの労働者向けカップで大きな利益を上げ、商売を拡大した店舗である。ハワイ島ホノムやホノカーなどの中規模のプランテーションでも、20世紀の初頭には商業の連なりが始まり、1930年代には映画館のあるメインストリートが形成された。

20世紀の初頭、台湾で糖業プランテーション開発を行った草鹿砥らが参考にしたのはハワイの同時期の製糖会社の技術者向け住宅であり、その福利厚生施設であったと思われる。その後ハワイの一般労働者向け住環境が劇的に向上し、建築家やプランナーが関わり、郊外住宅地的な整備も行われるが、それは1920年代まで待たねばならない。一方、台湾で20世紀初頭から展開した糖業プランテーションは台湾人の労働力を使ったため、ハワイのように大量の労働者向け住宅を供給する必要はなかった。中心は製糖工場と工場関係者や農場技術者のためのセトルメントである。植民地経済

を担った製糖会社は官に近い存在であり、周囲の台湾人からは製糖会社＝台湾総督府だと思われていた場合もある。そのためより象徴的な空間整備が求められたと考えられる。1910年代にはグリッド街区や街路樹、福利厚生施設などの要素を持つシステムティックなモデルができていた。

南洋群島の開発は1920年代以降となる。南洋群島の糖業プランテーションは台湾で確立したモデルを展開したものである。耕地労働の担い手もほとんどが日本人移民（半数以上が沖縄出身者）であり、そのため台湾よりも多くの一般労働者向け住宅が必要となったという点ではハワイのプランテーションに近い。しかし、南洋群島の糖業プランテーションもまた植民地経済を牽引した官に近い国策企業であり、労働者も植民地帝国の担い手として、近代を象徴する空間整備の一部に組み込まれた。1930年代に整備された南洋群島の糖業プランテーションは、そうした日本型計画的セトルメントの到達点と位置付けられる。

(文中文献)

Cozad, Stormy 2008. Kauai (Images of America), Arcadia Pub.

Odo and Sinoto. 1985. A Pictorial History of the Japanese in Hawaii 1885-1924, Bishop Museum Press.

Pagliari, P. Ewa Plantation An Historical Survey, 1987, p.16.

Riznik, Barnes. 1999. From Barracks to Family Homes: A Social History of Labor Housing Reform on Hawaii's Sugar Plantations, The Hawaiian Journal of History, col.33, pp.119-157.

武居熱血. 1914. 布哇一覽. 本重眞喜堂.
ヤノ, アケミ・キクムラ. 一世の開拓者たち-ハワイとアメリカにおける日本人移民の歴史 1885-1924, 2011.

5. 主な発表論文等
執筆中。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小野 啓子 (ONO Keiko)

沖縄大学・法経学部法経学科・教授

研究者番号：50369211

(2) 連携研究者

安藤 徹哉 (ANDO Tetsuya)

琉球大学・工学部環境建設工学科・准教授

研究者番号：60222783